

2014年度 早稲田大学 教育学部 国語解答例

(一) 「出典」 佐藤真『ドキュメンタリー映画の地平』

〔解答〕

問一 ウ 問二 ア 問三 両刃(諸刃) 問四 オ 問五 イ
問六 ア 問七 イ・カ

(二) 「出典」 竹西寛子『「あはれ」から「ものあはれ」へ』所収「見る」に始まる」の全文

〔解答〕

問八 甲 到来 乙 器 問九 オ 問十 ウ 問十一 ウ
問十二 エ 問十三 ア 問十四 ウ 問十五 1 エ 2 黒い雨

(三) 「出典」 甲(古文)『増鏡』序文 乙(漢文)『淮南子』

〔解答〕

(甲)

問十六 ア 問十七 a 問十八 エ 問十九 エ 問二十 ウ
問二十一 イ 問二十二 栄花(華)物語 問二十三 強かりけれ

問二十四 オ 問二十五 イ

(乙)

問二十六 ウ 問二十七 オ 問二十八 エ 問二十九 止水
問三十 形物之性也

〔講評〕

(一)が評論、(二)がエッセイ的な評論、(三)が古漢融合問題、という形式は昨年度と同じ。ただし、(二)は昨年度と比べてより随筆に近い文章が出題され、(三)は古文、漢文の独立性が高い問題となった。

(二)は、作者の主張が、形を変えて繰り返し述べられているので、文章の読解自体はそれほど難しくないだろう。ただし、問一、問二など選択肢の絞り込みがやや難しい設問がある。

(三)は、随筆的な文章のため、内容理解よりも、選択肢の絞り込みに慎重さが求められる設問が目につく。

(三)は、甲は、「主体判定」「文法」「解釈」「和歌の修辞」「文学史」など、総合的な学力が問われる問題になっている。乙は、昨年度が「和歌」と「漢詩」の組み合わせであったのに対し、今年は漢文のみの出題であった。漢詩ではなく文章が出題され、文章量自体は増えたが、読解、解法ともにそれほど難しくはないだろう。

2014年度 早稲田大学 教育学部 英語解答例

I 1 - b 2 - b 3 - a 4 - d 5 - b 6 - a 7 - d
8 - c 9 - c 10 - b

II 1 - b 2 - c 3 - d 4 - d 5 - a 6 - b 7 - d
8 - b 9 - c 10 - b

III 1 - a 2 - c 3 - c 4 - a 5 - c 6 - c 7 - a
8 - d 9 - c 10 - b

IV 1 - a 2 - a 3 - d 4 - d 5 - b 6 - b 7 - d
8 - c 9 - d, e

V 1 - c 2 - a 3 - b 4 - b 5 - a 6 - d 7 - b
8 - b 9 - b 10 - d

※コメント

出題形式は例年通りだが、長文の内容は高度に専門的なものが減り、読みやすくなった。並べ替えの作文も文法の基本ができていれば解ける問題である。